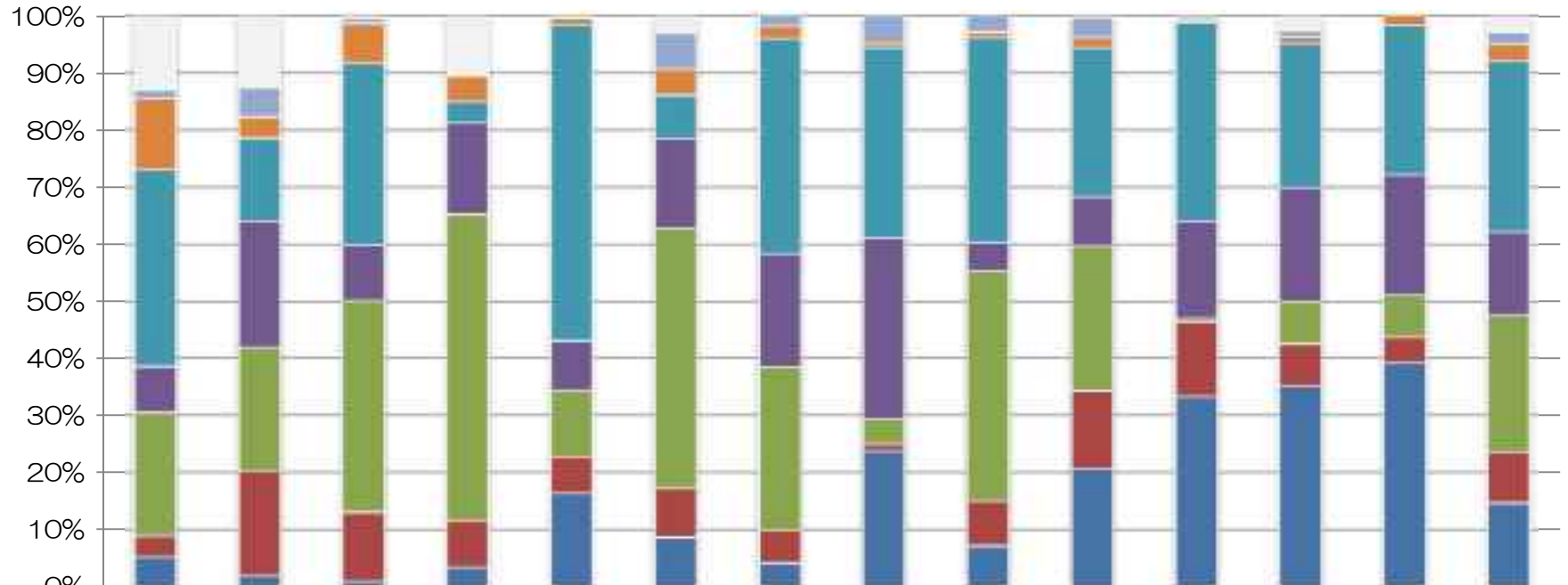


3-2. 原因食事別 食中毒患者数



	昭和29 ~33年	昭和34 ~38年	昭和39 ~43年	昭和44 ~48年	昭和49 ~53年	昭和54 ~58年	昭和59 ~63年	平成元~ 5年	平成 6~ 10年	平成11 ~15年	平成16 ~20年	平成21 ~25年	平成26 ~28年	合計
不明	260	297	14	195	8	49	0	0	0	3	10	78	0	914
自家製食事	32	122	29	6	0	105	51	99	127	75	20	34	0	700
家庭料理	251	89	235	88	28	75	63	16	48	37	13	36	17	996
弁当	698	344	1,063	72	1,307	126	1,074	688	1,648	535	1,268	785	274	9,882
仕出し料理	162	529	325	309	204	260	570	658	226	178	630	618	220	4,889
給食	437	513	1,243	1,037	275	757	814	91	1,855	524	23	235	79	7,883
定食	74	440	402	160	150	142	166	23	360	283	475	229	47	2,951
会席料理	105	45	33	65	387	144	119	492	331	424	1,216	1,090	410	4,861

食中毒の患者数が最も多い原因施設は「弁当」の9,882人（29.9%）と「給食」の7,883人（23.8%）であり、これらは大規模食中毒の影響が大きい。次いで「仕出し料理」4,889人（15.2%）、「会席料理」4,861人（15.1%）の順である。

1事件あたりの患者数は、「給食」が121人で最も多く、次いで「弁当」が72人であり、これらの食事は事件が発生すると大規模化しやすいので、特に注意が必要である。逆に喫食者が限られる「家庭料理」は9人と最も少ない。